岩手の生涯学習物語（実践期編）

第七話　「ウイメンズ・ライフロング・カレッジ」の巻

元岩手県教育委員会事務局社会教育課長　　髙　橋　　寛

「生涯教育推進事業」に新しい試みとして「ウイメンズ・ライフロング・カレッジ」が開発され、大きな反響をもたらしました。今回はそのお話です。

昭和 57 年度から 3 年間取り組んだ「生涯教育推進事業」は「生涯教育推進会議」、「生涯教育データバンク」、そして「広域事業」の三つで構成され、その広域事業の一つとして開発されたのが「ウイメンズ・ライフロング・カレッジ」です。

県民が対象

この事業は市町村の枠を超えて全県的な事業にしたことが特色の第一。これまで岩手では市町村の枠を超える事業はありませんでした。しかし、今、岩手の生涯学習を推進するにあたって大切なことは県民全体が生涯学習の必要性を理解し行動を起こすことと考え、全県的な事業を開発することとしたのです。

専門的学習要求に応える

しかも、その事業内容は高齢化、高度情報化、そして国際化など社会の変化に対応するため、高度なしかも多様な学習要望に応えるものでなければなりません。そのため、指導体制を大学や研究施設の専門職員の協力を得て創ることとしたのです。

女性の専門学習に特化

全県的事業と言っても 142 万県民全体を対象にすることはまず不可能なこと。そこでこれからの社会の発展を力強く担う女性の役割に着目し、対象を女性県民として公募することとしました。こうして全県的しかも専門的な学習機会として岩手大学を会場に「婦人の生涯学習促進事業―ウイメンズ・ライフロング・カレッジ」が誕生したのです。

しかもコース別学習も

この「ウイメンズ・ライフロング・カレッジ」は全体学習とコース別学習で構成されました。概要は次の通りです。

区　分		テ　ー　マ
全体学習	生涯学習コース（12 時間）	1. 今、生きがいとは
		2. 新しい風「生涯学習」
		3. 仮面と現代
		4. 国際化時代と婦人の役割
コース別学習	女性学コース（18 時間）	1. 美しく生きる
		2. 町おこし、村おこし
		3. 女性の自立を考える
		4. 近代文学の中の女性像
		5. 日本女性史をさぐる
		6. 新しい女性のコーデネート
	国際理解コース（18 時間）	1. 暮らしの中に世界が見える
		2 文化摩擦を乗り越えて
		3. 世界の中の日本女性
		4. 異文化に学ぶ（アジア編）
		5. 異文化に学ぶ（欧米編）
		6. 世界の子供、日本の子供

大きな反響、確かな成果

この事業の反響は大きかった。100 名定員に 200 名を超える応募、ほとんど欠席無しの参加率、そして圧倒的に継続を望む声。それはそれは大変なものでした。こうして広域的かつ専門的な学習機会が県内に広がり、県民の学習機会は格段に向上しました。その契機となったのがこのカレッジだったのです。次回は広域事業のほろ苦い思い出です。乞うご期待。